

アーチェリー競技における安全対策

埼玉県高体連アーチェリー専門部
埼玉県立上尾橘高等学校 大竹 志津

1 アーチェリーの道具

そもそも、アーチェリーは狩りや戦争で使用されていた「弓矢」がスポーツとなった。

弓は木製やプラスチック製のものから金属製のものまで幅広く、使用者の筋力や体格にあわせたものを使用する。弦を引くのに力があまりいらぬものは飛ぶ距離が短く、力があるものは飛ぶ距離が遠く、矢が飛ぶスピードも速い。

弓は、ハンドルとリム（上下）に分かれているものがほとんどである。（リムを変えることで、弓の強さを調節するため）弦も、弓全体の長さによってさまざまなサイズがある。

矢は、アルミ製のもの、カーボン製のものがある。初心者はアルミ製のもの（安価、太くカーボンより重い）を使用することが一般的である。中級者（50m以上の距離を射てるようになった者）は、カーボン製の矢（高価、細くて軽い）を使用することが多い。矢の先には矢が刺さるようになるための金属製のポイントがついており、どんなに弱い弓で引いたとしても「刺さる」ことが一番危険である。

2 組織としての安全対策

全国高体連アーチェリー専門部

「部活動要綱」 安全対策（アーチェリー部員の遵守事項）

「事故防止のための安全指導対策」

「高校生のアーチェリー部活動を安全に行うために」

埼玉高体連アーチェリー専門部

各校練習場の安全確認（委員長）

大会時に全部員を対象とした安全講習

全日本アーチェリー連盟

「安全規定 - アーチャーの安全マナー -」

3 具体的な安全指導

- (1) 弓具は常に点検すること（特に弦切れ）
- (2) 他人の弓具に無断で触れないこと
- (3) アームガード等は必ず使用すること

- (4) ストリンガーで弦を張るときは、弓の上に顔を置かないようにする
- (5) 身体にフィットした服装で行射すること
- (6) 的の方向に人がいたら決して行射しないこと
- (7) 人のいる方向に向かって、たとえ矢をつがえていなくても弓を引かないこと
- (8) 空引き（矢をつがえずに弦を離すこと）はしないこと
- (9) 行射及び矢取りは、全員同時に合図をもって行うこと
- (10) 矢を抜くとき、矢の後方に人がいないことを確認してから抜くこと
- (11) 的の後方に矢を取りに行くときは安全を確認しておこなうこと
- (12) 弓を安全に扱うために、体力に合った強さの弓を使用すること
- (13) xアーチェリー競技は危険な道具を使うスポーツであることを認識し、十分に注意して行うこと

「全国高体連アーチェリー専門部 部活動要領」より

4 練習場や試合会場での安全確保

① 会場設営

立ち入り制限区域であることを明記し、ネット等で侵入できないように工夫する。

防矢ネットを使用し、矢が会場の外へ出て行かないようにする。

② 弓具検査（ルールに適応していることはもちろん破損等ないか）

③ 行射管理（審判・役員による安全な試合進行）